

PLUS 1 LIVING & BonChic



FRONVILLE HOMES
NAGOYA



フロンヴィルホームズ名古屋がつくる 心地いい住まいとインテリアの実例集

一生に一度の家づくり。
日々の暮らしやすさはもちろん、
憧れのインテリアが楽しめる住まいが理想です。
「プラスワンリビング」と「ボンシック」に掲載された実例から、
夢を叶えた8軒のお宅をご紹介します。



優雅なラインを描く階段が見せ場の、開放的なリビング。アメリカ製のボリュームのあるソファを、木々が望める窓に向けてレイアウトしています。

やわらかな日ざしが入る
リビングの窓辺。パリの
カフェを思わせる椅子
とテーブルに、古くて味
わいのあるものやオブ
ジェをあしらった、フレ
ンチシックなコーナー。





1 アイアンの室内窓越しに見えるダイニング。2 どっしりとした木の質感が、フランスの田舎家のような雰囲気。テーブルは東京・目黒の「Found」で運命的な出会いをしたもの。「2m幅で奥行きが70cmという、細長いテーブルをイメージしていたら、ぴったりのものに出会って、ひと目惚れでした」。椅子は「H.P.Deco」と「シャンブル ド ニーム プロカント」で見つけたアンティーク。


上級のセンスが感じられるNさんのお宅ですが、インテリアに目覚めたのは、意外にも最近のこと。現在のお住まいを新築するためのプランニングがきっかけでした。「インテリアの本や雑誌を買い集めて、好きな雰囲気の家を抜き出してみると、心をひかれるのはみんな海外のお宅でした」。それらの家から「日本の家とどこが違うのか、どうして素敵と感じるのか」を読みとぎ、いくつかのポイントを見つけたNさん。「ひとつは、越しに見えること。ドア越しや壁越しに切りとられたように見えるシーンに心を奪われました。次にひかれたのは、家そのものはクラシカルで、そこにモダンなものを組み合わせたスタイル。素敵と思うお宅は、だいたいそういう感じで。そしてそれは、

ドア越しに、窓越しにのぞき込むような、美しい光景に魅せられて

だいたいフランスのアーティストのお宅でした(笑)」自ら見つけ出したポイントを意識して、袖壁や室内窓で、越しの空間をつくり、ルーバー扉や窓枠でクラシカルな要素をとり入れ、完成した理想の家。「イメージどおりの家ができたので、モダンなものや味わいのあるものを組み合わせて、シーンづくりを楽しんでいます」

3、75才の息子さんの子ども部屋は、グレイッシュなブルーを基調にパリの子ども部屋っぽくコーディネート。「男の子の部屋をかわいくできるのは小さいうちだけだから、今は私の好きにさせてもらっています(笑)」4 グレーのチェストは、ナチュラルな木目色だったものをペイントリメイク。5 リビング脇のワークコーナー。「今は子ども遊び場になっています」6 子ども部屋のドアサインは、カラフルなアルファベットで名前のタイポグラフィを。





白い腰板壁のリビングは、洗練された大人のカントリー。ローテーブルは、リプロダクションのダイニングテーブルの脚をカット。マットは、西田さんが3年ほどかけて、裂き編みしたもの。

降り注ぐ光の中
のんびりキルトを作る
至福のスペース。



1 奥様がベルギーの蚤の市で一目惚れしたブラケットライト。2 「照明類は一目惚れしたブラケットライトと雰囲気似た真鍮製のものを集めるようになり、プロカント通いもいっそう楽しくなりました」




当時の暮らしに思いを馳せ、
ロマンにひたるひととき

Sofa Place

ゴールドのソファと、大きな鏡を携えたマントルピース。存在感のあるものが互いを引き立て格調高い空間に。

3 イギリス製のブックケースを食器棚に。4 「家具類は、日本に帰国したときにマンション暮らしになるのか戸建てになるのかわからなかったので、とにかく、「小ぶりで高さのないもの」を合言葉に揃えていきました(笑)」5 開放的な吹き抜け階段の壁には、ベルギー名産のゴブラン織りのタペストリーを飾ってアクセントに。





トーンを抑えたグリーンの壁に
花柄をあしらった空間は
まるで大草原にいるような心地よさ

華やかな花柄を中心とした空間に、レザーのソファや薪ストーブなど力強さのあるアイテムをバランスよく取り入れた、ワンランク上のコーディネート。